



# 令和4年度 商業者ネットワーク構築事業 『あきんど繋がるまちづくり』 開催レポート

v02

「あきんど繋がるまちづくり」は、商店主・商店街による活動の活性化を図るために、共通する課題をテーマにして、「現場で実践するゲストからのトーク」と、「ゲストと参加者によるグループワーク」を通じて、ナビゲーターと共に、課題解決につながるヒントを探る場を提供しています。

## 第2回 「情報からまちづくりと地域活性化を考えよう！」

■日時: 令和4年11月28日(月) 14:00-16:00      ■場所: オンラインツールZoom  
■参加: 13名(ゲスト、ナビゲーターを含む)

### 1 共通の課題

- ・ イベント情報や活動報告などがうまく伝わらない…、いいイベントなのに地域住民に浸透しない…
- ・ 情報をどのように発信したらよいのかわからない。
- ・ 商業地域に活気をもたらすのに、地域で店舗や人とのつながりをつくりたい。

### 2 ゲストトーク

株式会社エリアブレイン 代表 岩倉 宏司 氏

- ・ 当社は1980年2月に「地域情報誌マイタウン」の発行を始めた。新百合ヶ丘駅の開発で、移転者が増えてきており、地域情報紙の役割は大きかった。現在、デジタルの時代になってきているが、麻生区7万世帯に対して5万部を発行と、一定の需要があり、紙での発行は継続していくつもり。
- ・ 大学生のころ、地元でのオーケストライベントを手伝ったことがきっかけで、「芸術・文化のまち」というコンセプトとしたまちづくりに携わることになった。
- ・ 「新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム」の活動にも携わっている。新百合イルミネーションや、年8回の新百合マルシェの開催などを展開。
- ・ 場づくりをすると、地域で人と人がつながり、情報が集まる。これが広がると、地域で情報を取ってきてくれるひと、まとめてくれるひと、切り取って記事にしようとしてくれる人がでてくる。記事は再発信されることで、様々な角度の情報が入り豊かになる。



ハッピーサークル 代表 徳植 由美子 氏

- ・ 川崎駅西口から徒歩15分ほどのところにある「新岩城菓子舗」の三代目女将。
- ・ 銀行員の夫と結婚も、99年から店を継ぐことに。夫も銀行を止めてついてきてくれた。当初は和菓子づくりの素人だったので、他の和菓子屋訪問や、商工会議所のセミナーなどに参加して商売を勉強してきた。
- ・ 2000年代に、近隣に大型ショッピングモールが出店してから商店街を通る人が激減。こうした中、幸区長がたまたま来訪し、「まちを元気にしてほしい」と言われたことをきっかけに、商店街の枠を超えて近隣の個人商店が集まる団体「ハッピーサークル」を設立して地域で活動している。



- ・ 活動に皆を楽しく巻き込むこと。ハッピーな気持ちの積み重ねが成果となり活動が続いている。
- ・ SNS、チラシ、写真・動画のテクニックは日々勉強を続けている。情報に楽しさを加えながら人柄を出すことで「会ってみたい」と思ってもらえるよう伝えるための工夫を。
- ・ 自店舗としては、近隣小学校の3年生を対象とした和菓子づくり体験、同じ幸区にある農家のイチゴを使ったフルーツ大福の開発・販売、サイクルラックの設置によるサイクリストとのつながりづくりなど、色々取り組んでいる。こうした新しい取組が取材されたり、お客がSNSで発信してくれることにつながっている。

### 3 グループワーク

ゲストトークをもとに、参加者個々の思いを声に出し、意見交換することで新たな発見をすることを目的に、「地域での仲間づくり」と「つながるための情報ツール活用」の2テーマでゲストを交えたグループワーク（意見交換）を行いました。

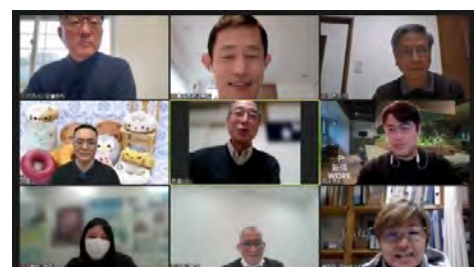
#### 第1班 地域での仲間づくり

- ・ 仲間がない場合は、同じような活動をしている団体を探してその活動に参加してコラボレーションする方法がある。
- ・ 活動に対する想いは人それぞれ。乗り気でない人には無理強いしない。
- ・ SNSは楽しみながら活用していくことが基本。嬉しいことや楽しいことを発信して交流することで仲間づくりにつながる。



#### 第2班 つながるための情報ツール活用

- ・ 商店街のエリアに関わらず近隣で仲間づくりをしたい場合、一緒に楽しめる人と始めること。仲間、人間関係は商売をするうえで財産となっていく。
- ・ 商店主も住民であり、町内会や団体等との関係づくりを担う役割がある。
- ・ 初めに物事を起こすのは大変だが、その一歩が大切。



ヒント

### 4 課題解決のヒント（議論のまとめ）

- ・ 自らが動かねば事が進まない状況は、つながりを活用すれば少人数で展開できる。
- ・ 学び、経験を重ねて失敗を恐れずに続けていくモチベーションの維持は仲間づくりが重要。
- ・ SNSで全員が「イイね」を押してくれなくとも自己評価で良いと感じる活動を続けていく勇気。
- ・ SNSは様々な世代の人へ手軽に情報が届くため、活動の広報だけでなく地域活性の仲間づくりに、集客にも役立つツールとなる。
- ・ 同じ思いやニーズに沿った情報を受信することから新しい活動へ発展することがある。活動を相互に応援しあえる関係性づくりのために興味のある分野へアンテナを張る。
- ・ 紙媒体、インターネット、SNSを通して発信者と受信者は「人」なので、思いやり、おもてなしの心を忘れずお互いの信頼を構築する。